

絶滅危惧類 スミレ科

## ナガバノスミレサイシン

*Viola bissetii* Maxim.

【選定根拠】 全ての個体群で個体数が減少

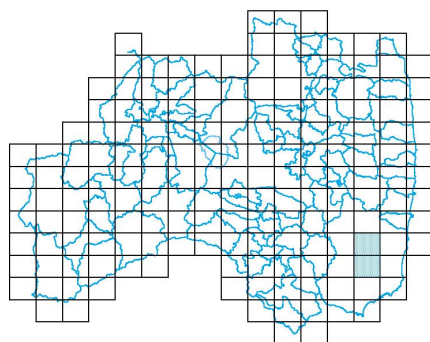
【形態】 無毛、または葉の裏面の基部付近に毛がある。地下茎はやや太くて横たわり、節は密接する。葉は少数、花に遅れて開き、深緑色で、やや厚く、三角状長卵形ないし三角状披針形で長くとがり、長さ5~10cm、低い鋸歯があり、基部は深く湾入する。托葉は離生し、長さ8~12mm、帯褐色。花柄は長さ5~12cm。花は大型、淡紫色、4~5月に咲く。花弁は長さ15~18mm、側弁は無毛、唇弁には紫条が入り、距は短く太く、長さ4~5mm。

【分布】 本州(福島県以西の太平洋側)~九州に産する。

【県内の分布、生育状況】 浜通りにごくまれに産し、本県が北限となっている。

【生育に影響を与えている要因】 森林伐採、土地造成

【特記事項】 生育地の保護が望ましい。



絶滅危惧類 スミレ科

## オオバタチツボスミレ

*Viola langsdorfii* Fisch. subsp. *sachalinensis* W. Becker

全国カテゴリー；絶滅危惧類

【選定根拠】 全ての個体群で個体数が減少

【形態】 地下茎は太く、密に結節し、伸長する。根出葉は少数で、長い柄があり、早く枯れて花期にはない。茎は丈が高く、長さ20~40cmになるが、倒れやすく、3~4個の葉をつけ、下部は無葉で節上に鱗片化した托葉がある。葉は縁が深く、円心形で長さ3~7cm、波状の鋸歯があり、先は鈍頭または短く鋭くとがり、基部は心形、上方の2個の葉は互いに接近し、柄も短くなる。托葉は離生し、大型で、葉に付属するものは緑色、卵形で、長さ1~2cm。花柄は茎上の葉に腋生し、花は大きく、花弁は長さ15~20mm、淡い紫色。花期は6~7月。

【分布】 北海道・本州中北部に産し、樺太・千島・カムチャッカに分布する。

【県内の分布、生育状況】 尾瀬、雄国沼などに産する。

【生育に影響を与えている要因】 遷移進行、園芸採取

【特記事項】 生育地の森林を含む環境を保全するとともに、鑑賞のための採取・販売をしないことが望ましい。

